



「三愛会」の歩み

発足

『従業員は事業の協力者である。信条とする三愛主義を徹頭徹尾貫いて、彼らが勤めを楽しい面白いこととして愛するように導いていきたい。そして、働くことに何の心配もつきまとうない、世界のどこにも類例のない独特の「市村産業団」というものを作り上げていきたい』

創業者・市村清は、創業当時から抱いていたこの思いを実現するためには、各社相互の連携を図ることが大切だと考え、1944（昭和19）年8月、市村が創業した理研光学工業、理研特殊製鉄など7社で、三愛会の前身である「自蹊会」を設立しました。

そして終戦翌年の46（昭和21）年4月4日、「自蹊会」を「三愛会」と改称し、その目的を「傘下各社の連絡統制を図り関係事業の助長を期する」としました。

同年12月、機関誌『三愛』（現『三愛会会誌』）を創刊し、誌上で「三愛精神」（人を愛し 国を愛し 勤めを愛す）を発表しました。

グループ各社とその社員たちが三愛会や機関誌『三愛』を介して強い絆で結ばれること、それが市村の望みでした。

目的

68年（昭和43）年12月16日、市村は急逝しました。後を託された館林三喜男第2代三愛会会長は、翌年12月、新たな三愛会の目的を、「本会は、創業者市村清の経営理念である三愛精神『人を愛し 国を愛し 勤め

そしてこれから

を愛す』を基盤とするリコー三愛グループ各社をもって構成し、創業者の遺志を尊重して会員会社相互の発展と団結、ならびにグループのイメージアップをはかることを目的とする」と定めました。

三愛会の目的は今も変わらず引き継がれています。

活動

時代を経るに従い、三愛会はその時代の環境変化に合わせて、活動を変えながら今日に至っています。

リコー三愛グループの経営統制活動に重きを置いた時代、グループ共通の福利厚生活動に重きを置いた時代、グループ各社間のコミュニケーションに重きを置いた時代、グループ外へのPR活動に重きを置いた時代などさまざまな時代を経て来ました。

その間、変わらず大切にされた活動は、創業者・市村清を顕彰する活動と、「三愛精神」を次の世代につなげる活動でした。

これから

三愛会は変わらず大切にしている活動と新たな一歩を踏み出す活動に取り組めます。

まず、市村顕彰活動と、「三愛精神」を次の世代につなげる活動はこれからも続けていきます。

そして、「会員各社が共同で取り組む活動を通して、社会的価値を提供し、より強い絆を築く」こと、それが新たに踏み出す一歩です。

これらの活動を通して、リコー三愛グループ各社および社員間の絆を深めるとともに、グループ外からの信頼と好感を得ることを目指します。

創業者・市村清の 生きざまに学ぶ

『茨と虹と市村清の生涯』（改訂版）

尾崎芳雄著



日本経済新聞に掲載された「私の履歴書」を担当した著者（当時新聞記者）が、創業者・市村清の全生涯の記録をまとめた伝記。

佐賀県の貧農の子から身を起し、激動の昭和産業史に異色の実業家として光芒を放った市村。その人生を支えた精神力から何事にも屈しない行動力まで、余すことなく描かれている。

『市村清実践哲学』（新装版） 市村清著



市村清が生涯貫き通した実業家としての姿勢とは、どのようなものだったのか。

全七章にわたってつづられた市村の実践哲学は、人はどう生きるべきか、企業人はどうあるべきかを示唆する内容に富んでおり、私たちに前進む力を与えてくれる。

三愛会の主な活動

三愛会では、創業者・市村清の顕彰と「三愛精神」を次の世代につなげる役割を担ってさまざまな活動を実施しています。

市村清を辿る

市村清没後50年を迎えた2018年、ゆかりの地へ皆さんを誘いました。

市村清ゆかりの地 佐賀を巡る

市村清生誕の地・佐賀県では、2018年3月から約10カ月にわたって「肥前さが幕末維新博覧会」が開催されました。

市村が佐賀県に寄贈した市村記念体育館をメイン会場として行われた維新博は、総来場者数220万人を超える一大イベントとなりましたが、19年1月14日、惜しまれつつ閉幕しました。

三愛会では、ホームページに特設サイト「市村清ゆかりの地 佐賀」を設け、リコー三愛グループの社員の皆さまに市村のゆかりの地を知っていただく活動を展開しました。

市村の幼少期の頃の風景が今も残る佐賀で、市村清と三愛精神の原点を辿る旅。今からでも遅くありません。ぜひ、訪れてみてください。



市村清ゆかりの地 佐賀

<http://san-ai-kai.jp/ichimura/facility/saga.html>



市村清を辿る佐賀 MAP 「佐賀市内」と「みやき町」



市村清の生涯を紹介したビデオ「三愛精神のルーツを辿る」

特製「市村清の丸房露」を発売

佐賀の老舗鶴屋さんとのコラボで誕生した市村清の焼き印付き丸房露を発売。(予約販売)

●購入の際は下記アドレスからお申し込みください。

<https://www.secure-cloud.jp/sf/1535372049ZSUsrUTC>



ゆかりの地 東京ツアー開催

市村清の命日(12月16日)を前にした12月14日、市村清ゆかりの地をめぐる「東京ツアー」を進行。
三愛会常任理事会社4社から社員代表16人にご参加いただき、墓参を皮切りに全5カ所を訪れました。

- ツアーコース
- 興国山 賢崇寺
- 市村清新技術財団
- 明治記念館
- 三愛石油 羽田支社
- 三愛ドリームセンター



市村清の墓参(興国山 賢崇寺)

三愛会オリジナルキャラクター「チビ清」

少年期の市村をモチーフにしたオリジナルキャラクター「チビ清」(全13種類)を制作。三愛会のさまざまな活動を、元氣よく、楽しく伝えるアイコンとして活用していきます。

今月の市村清

三愛会ホームページでは、2017年10月1日にスタートしたコラム「今月の市村清」を連載中(毎月1日に更新)。
貧しかった幼少時代の市村や、不屈の精神と時代の先を読み取ったアイデアで事業家として成功を収め、世の中のために尽くした市村など、市村らしいエピソードを紹介していきます。



『三愛会会誌』の発行

年2回発行。リコー三愛グループ社員向けに、グループ各社のニュース、特集などを掲載した機関誌です。



『リコー三愛グループ案内』の発行

年1回発行。三愛精神およびリコー三愛グループや三愛会について紹介した冊子です。三愛会ホームページでも内容を閲覧できます。



ホームページの運営

三愛会のさまざまな活動やグループ創業者・市村清、三愛会会員会社の紹介や情報を発信しています。



市村清著作物の発行

リコー三愛グループや三愛会を創立し、三愛精神「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」を唱えた市村清の著書や関連図書を発行しています。



愛の手募金活動

リコー三愛グループ社員による「愛の手募金」は、1975年にスタートしました。毎年集められた浄財は、社員の遺児や重度の障がいを持つお子さんたちにプレゼントとして贈呈しています。



三愛会支部活動

北海道、東北、東京、神奈川・東静岡、中部、近畿、中国、九州の8支部を置き、さまざまな活動や行事を展開しています。

三愛会

〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6
TEL 050-3534-3401

設立：1946年4月4日

構成

- 会員会社 38社・団体 (2019年1月1日現在)
従業員数 約 39,000名
- 常任理事会 三愛会の最高議決機関。三愛会会長と常任理事会社4社※の社長で構成
※リコー、三愛石油、リコーエレメックス、リコーリース
- 理事会 三愛会に関するあらゆるテーマについて検討し、常任理事会に提案
- 支部 全国8支部
- 総合事務局 東京に本部
各常任理事会社、各会員会社、各支部と連携を取って、三愛会活動を推進

URL <http://san-ai-kai.jp/>